

令和3年度第1回学校評議員会 各委員からの質疑・御提言

- 1 日 時 令和3年6月30日(水)15:00～16:00
- 2 場 所 本校会議室
- 3 出席者 学校評議員 菊地 洋 佐々木尚人 川合伸二 平井加代子 黒田大介
校長 高橋正浩 1・2部副校長 鈴木 卓 3部副校長 菊池 治
通信制副校長 朝倉雄大 事務長 秋山 武

◎質疑応答

Q:「こころとからだの健康観察」において、沿岸部や原発避難地域からの生徒に特徴的な面は見られるか。

A:震災から10年が経ち、特徴的な面はあまり見られない。沿岸部出身の生徒でも、震災の影響としてではなく、生徒個々の抱える問題としてとらえている。一人一人の抱える問題に対しては、HR 担任、教育相談課、養護教諭が連携し、かがやきプランの支援員やスクールカウンセラーを配置するなどして組織的に指導に当たっている。

Q:高校生の子供を持つ母として、杜陵高校を応援している。通信制の出席状況はどうか。

A:本年度の入学式では新入生36名中3名が欠席した。入学式に出席することが既の高いハードルとなっている生徒もいる。入学式以降、スクーリングに全く来ていない者もいる。先生方がスクーリングを休みがちな生徒へは電話をして出席するように励ます中、多くの生徒はよく頑張っている。

Q:卓球部や陸上部が毎年全国大会に出場し、美術部も全国で入賞するなど部活動で高い成果を上げているが、どのような指導を行っているのか。

A:美術は長年本校の教育に携わっている専門家が講師でいて、熱心に取り組んでいる。運動部は練習を強制することではなく、生徒が主体的に取り組んでいる。陸上では全国大会を目指して、朝練習に取り組んでいる生徒もいる。

Q:通信制では盛岡少年刑務所でも指導をおこなっているようだが、松本にある少年刑務所のように交流の機会はあるのか。

A:今のところない。少年刑務所の方から特に交流を求められていない。

Q:校外へ学校の情報を発信する手段としてホームページがあるが、事務的な連絡ばかりで、生徒の活動を伝えるような内容に記事があまり掲載されていないのではないか。また、LINEを活用するなどいろいろな手段で情報発信をして欲しい。

A:ご指摘の通りで本年度はホームページを大幅に改正したいと考えている。生徒の活動を積極的に情報発信して本校に対するご理解を深めてもらえるよう努力していきたい。

Q：自分が高校生の頃は杜陵高校生は怖い存在だった。今は中学時代に不登校だったり、家庭の事情から入学している生徒がほとんどだと聞いている。そのような生徒たちが社会に出る訓練をどのように行っているか。

A：総合的探究の時間に地域の方を社会人講師として招いて視野を広めている。また、三部では、先日の杜高大会にOBに参加してもらった。アルバイトしながら、夜、通学し、四年間で卒業し、現在、社会人として立派に独り立ちしている先輩を手本として欲しいとの思いから無理を言って頼んだ。生徒にとって良い経験になったのではないか。

Q：送られてきた資料の中で「進路の手引き」の中の校長先生の挨拶の内容が素晴らしい。「根拠がなくてもきっとできると信じるのが大切」と述べているが、自分もその通りだと思う。学校の指導の中で自己肯定感をどうやって高めているか。

A：本校の生徒の中には、一時間毎に保健室で励まされ何とか出席できている生徒もいる。このように一時間一時間の出席を積み重ね、単位を取得して卒業につなげようとする努力を重ねることが、生徒本人に自信をもたらし、自己肯定感を高める指導になっている。

Q：ホームページの更新を生徒に任せることはできないのか。

A：生徒会で担当することが考えられるが、コンピュータの知識が必要である。検討してみたい。

◎御提言

O：昨年の学校行こう週間に参加し、日本史の授業を拝見した。生徒は3名だったが、生徒の理解度に応じた授業を展開しており、私自身授業を楽しむことができた。このような生徒個々に応じたきめ細やかな指導が杜陵高校の良さではないかと実感した。

O：仕事柄いろいろな方にインタビューしているが、心の豊かな先生に出会ったことがある。その方は、奥州の定時制を卒業し、一浪の後、短大に入学。都留文科大学に編入して中学校と小学校の教員免許を取得して、念願の学校の先生として勤務した。その方のように、どのような状況であっても、目標を持ち、努力すれば叶う、ということをぜひ生徒に伝えて欲しい。そして、多くの生徒が自分の目標を叶えることを期待している。

O：ホームページを活用して学校をどう周知させてゆくかが大切である。杜陵高校は様々な生徒に対して個に応じた指導を行っている。このような学びの多様性をホームページなどを使って広めてゆくと学校の可能性が広がるのではないか。

O：医大の教授の方で、中卒でいったん就職したが、職場の同僚から高校進学を勧められ、高校へ進学を果たし、医学部の教授になった方がいる。生徒を励ます機会があれば、いつでも引き受けるといういただいている。このように杜陵高校にエールを送りたいといただいている方はたくさんいるので、必要なときはぜひ声をかけて欲しい。